

令和4年度	学力創造プラン	日野第七小学校	第2学年
教科	児童の実態・課題	改善へ向けて	
国語	・文章の内容を正確に読み取れない傾向がある。	○主語と述語に線を引き、書かれていることを整理したり、正しい読みについて話し合ったりする活動を取り入れる。	
算数	・文章から場面や条件を正しく読み取ることが難しい。 ・長さ、重さ、時間等の単位についての理解が不十分である。	○文中の「わかっていること」「問われていること」に線を引いて内容を明確にする。また、文章を図や表に表したりして、具体的に場面を理解できるようにする。 ○ベーシックドリルや習熟用のプリントを定期的に活用し、既習の内容を思い出したり、理解を確実にしたりする機会を設ける。また、ミライシードのドリルパークなど今までの学習を振り返る機会を増やす。	
生活	・生活経験に差があり、活動や体験が不足している。	○児童の身近な生活圏を学習の対象や場として設定し、体験活動を通して学ぶ機会を増やす。 ○分かったことや体験したことを図や表でまとめ、理解を深める。	
音楽	・鍵盤ハーモニカを、正しい指使いで演奏することを苦手としている傾向が見られる。	○実態に応じて個別指導を行ったり、ペアやグループで見合ってアドバイスしたりする時間を設定する。	
図画工作	・細かい作業が得意でなく、作品づくりに最後まで根気強く、丁寧に取り組むことが十分でないことがある。	○手先を使った細かい作業を少しずつ取り入れたり、道具を使用する作業をしたりしながら、一つ一つ丁寧に取り組ませる場面を設定する。	
体育	・運動にあまり親しみがなく、思い通りに身体を動かすことが苦手である。 ・基礎体力がなく、運動を続けられなかったり、すぐに座り込んでしまったりする。	○固定遊具やマット運動などを通して、日常生活ではあまりしない身体の動きを通して体を動かすことの楽しさを味わうことができるようにする。 ○体育の授業ではマネジメントの時間を工夫し、運動量の確保に努めるとともに、休み時間はなるべく外遊びをして過ごせるようにする。	
特別の教科 道徳	・「いのち」の捉えが漠然としていることが見受けられる。 ・授業で学んだことを実際の生活の中で活かすことが難しい。	○命の尊さや個性を認め、互いを尊重し合うことを大切にできる指導をしていく。	
特別活動	・係や当番は、主体的に活動することが少しずつできてきている。 ・集団としての学級を意識し、自分たちで問題を解決していこうという意識は高くない。	○小集団での活動を通して、学級の一員としての自覚や係や当番活動の運営や協力についての意識をもたせる支援をしていく。 ○学校での集団生活を見つめ、振り返るポイントを可視化（掲示）し、学級内での課題に気づき、意識をもたせる工夫をする。	

